

安全管理計画書（案）

学校法人広島女学院

広島女学院ゲーンズ幼稚園

目次

1. 自然災害
 - 1) 地震
 - 2) 津波
 - 3) 火災

2. 気象
 - 1) 台風
 - 2) 大雪
 - 3) 集中豪雨
 - 4) 雷
 - 5) 濃霧

3. 園内事故対応
 - 1) 子どもを守る視点と、子ども自身の危険回避能力を育てる視点
 - 2) けが対応
 - 3) 子ども同士のけんか対応
 - 4) “ぼうけんのもり”での安全対策と管理
 - 5) プールでの安全指導と管理

4. 園外事故対応
 - 1) 園外保育での安全管理
 - 2) 登降園時の安全管理

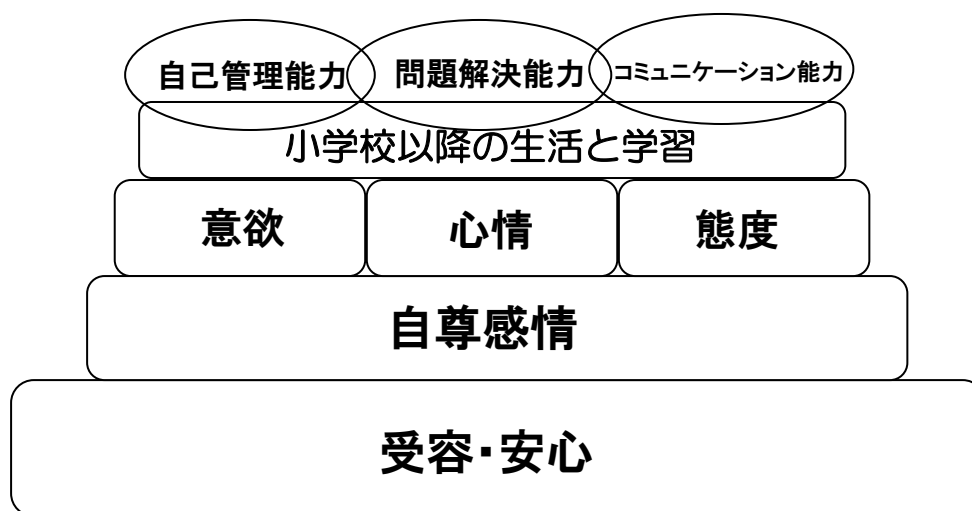
5. 保健衛生対応
 - 1) 園医
 - 2) 疾病 感染症
 - 3) 食育 衛生管理と食中毒
 - 4) アレルギー対応
 - 5) 保育環境の衛生管理
 - 6) 動物飼育に関する安全・衛生管理
 - 7) 危険生物への対応
 - 8) AED 取扱い
 - 9) エピペン取扱い

6. 不審者対応
 - 1) 園内での対応
 - 2) 登降園時の対応
 - 3) バス送迎時の対応

7. 園バス事故対応

安心して、安全に園生活を送っていただくために

未来を生きていく子どもたちに必要な力は、一言でいうと「生きる力」であると言われています。そして、これからの予測不可能な社会を「生きる力」とは、「自己管理能力」、「問題解決能力」、「コミュニケーション能力」であるとも言われています。幼児期に培った「意欲」「心情」「態度」の土台の上に、学童期以降の学習と生活体験によって、総合的にそれらの人間力「生きる力」が身についていきます。そして、その幼児期の「意欲」「心情」「態度」の基になるものが自分自身を信じ、大切にできる自尊感情であり、さらに、その自尊感情が育まれるために不可欠なのが、幼児期にありのままを受容されて過ごす、安心感の中で過ごすことです。



広島女学院ゲーンズ幼稚園では、この受容と安心をベースに、他者と交わり、身近な自然や社会の事象にふれ、主体的に環境と関わり、それぞれの個性に合った方法で意欲・心情・態度を育むことができるように、遊びと生活を中心とした様々な体験活動ができる環境を整えています。子どもたちが試行錯誤しながら主体的な活動を展開していく場では、様々な葛藤体験や、時には小さな怪我や事故が生じることがあります。私たちは、子どもたちを守るために次の2つの観点で「安全」を定義し、保育内容及び保育環境を計画し、見守っています。

1. 「安全」は、大人が子どもたちの周囲の危険(ハザード)を取り除くことによって守られる。
2. 「安全」は、保育者や仲間との主体的な活動の中で危険(リスク)と出会い、向き合い、伝え合い、学び合う体験を重ね、子どもたち自身に身を守る力、危険を回避する能力が身につくことによって守られる。

この計画書では、子どもたちの園生活の中で起こりうる様々な危険を想定し、その安全を守るための準備や環境、計画と対策を立てるとともに、子どもたち自身が、安全な生活について思いを巡らせ、考え、話し合い、自分たちの身を守る行動をとることができる保育内容・保育環境を整えていくための指針となる事項をまとめ、提示しています。

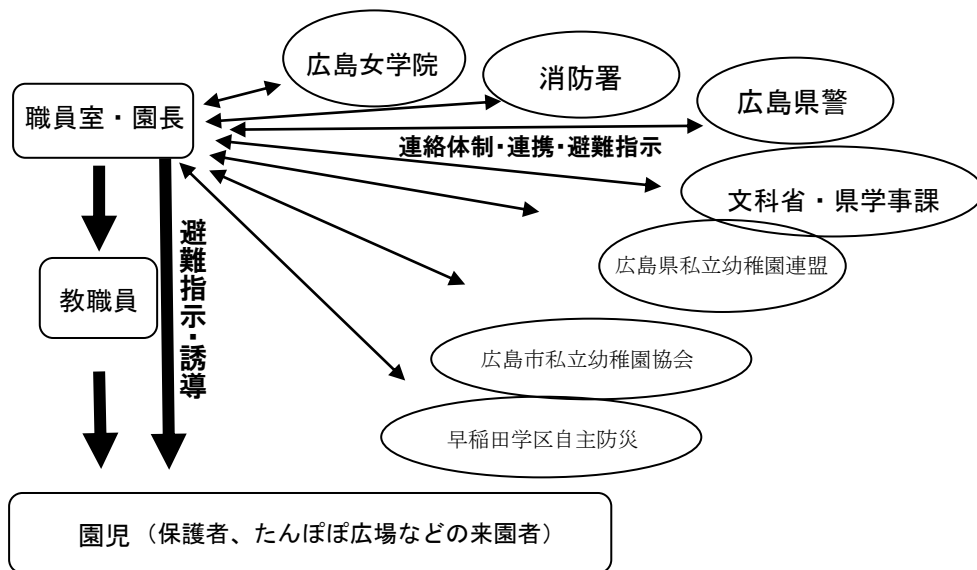
1. 自然災害

災害対策の基本は、(1)備える:事前の危機管理、(2)守る:発生時の危機管理、(3)立て直す:事後の危機管理、この3つを柱として取り組むべきと考えます。そこで、本園では、様々な災害を想定して備え、子どもたちを守り、さらに災害が発生した場合の対応を以下のように取り決め、保護者や地域と連携します。

1) 地震

(1)備える:事前の危機管理

① 安全管理体制



幼稚園は、広島女学院本部、地域の消防署、広島県警および所轄署、文部科学省及び広島県学事課、広島県私立幼稚園連盟、広島市私立幼稚園協会、早稲田学区自主防災連絡協議会と連携し、日頃から連絡体制を確認し、情報提供や避難指示、救急体制の備えをしています。

② 備蓄

園内には以下のものを備えています。

●健康・安全を守るもの 通常のおやつストック(乾パン、ビスケットなど)、水分(ミネラルウォーター約100リットル:園児一人当たり500cc)、毛布

●情報を確保するもの 乾電池、ラジオ、ワンセグテレビ

*1日以上過ごす必要が生じた場合は、広域避難所(早稲田中学校)へ移動します。そこには、非常食、毛布、炊き出しの食材や備品が備蓄されています。

●AED:職員室内に1台、幼稚園駐車場のグラウンドトイレ内に1台あります。

●各クラスに1つずつ、担任が緊急時に持ち出すバックパックがあります。中身は以下の通りです。

救急箱、タオル、バスタオル、ティッシュ、着替え、水(500ml)、ホイッスル、
クラス名簿の写し、メモ帳、ボールペン、油性ペン、10円玉×10枚、
リボン(クラス人数分:避難所で当園の園児であることを示すもの)



③ 点検

備蓄されている食品や水分、暖房機器や情報を入手する機器が常に速やかに運び出され、活用できるように随時、点検・確認します。食品は定期的に子どもたちがおやつとして食べており、常に新しいものが備蓄されています。水分も同様です。毛布は大人用の大きさのものが30枚あります。早稲田中学校への避難の際、職員が持ち出せるようにバッグの中に収納されています。食品・水分は「台所」、毛布は「ホール」、情報機器及び乾電池、AEDは「職員室」に保管しています。

④ 避難訓練

年に2回、比較的小さな地震(震度2以下)、中規模(震度3~5)、かなり大きな地震(震度6以上)を想定して避難訓練を行っています。

●小さな地震の場合、揺れを感じたらその場で姿勢を低くして、近くの保育者の指示に従うことを伝えています。近くにいる保育者の指示に従い近くの椅子や机の下に潜り込むこと、落下物に備えた安全確保について話し合い、その動きの確認をしています。そばに座布団があれば外して頭を覆うことも練習しています。初期避難は地震の大きさにかかわらずすべて同じです。園長および事務職員が情報を収集し、各職員からの報告を受け、全体の安全を確認後、通常の園生活に戻ります。

●中規模の地震の場合、初期避難は『小さな地震』と同じです。一旦揺れが収まり、周囲の安全を確認しながら建物の外に避難する場合や、建物の倒壊の心配がなければ、各保育室や幼稚園ホールで次の指示を待つ場合など、情報を収集し、地震の大きさや強さ、被害状況に応じた動きができるように、教職員は研修を受け、訓練を重ねて、子どもたちの生命を守る最善の動き・避難誘導ができるように努めています。

●大きな地震の場合、緊急地震速報の避難指示を受けて園内放送を流し、保育者の指示・誘導に従って速やかに戸外の安全な場所に避難する動きを確認し合っています。緊急避難速報の後、直ぐに揺れが始まってしまう場合には、移動することを止め、トップライトや照明器具、窓ガラスの付近からできるだけ離れた室内の安全な場所に誘導し、姿勢を低くさせ、近くに机や椅子があれば、その下にもぐり身を守る動きが速やかにできるよう指導しています。

⑤ 避難経路及び場所

大きな地震の際、直ぐに避難できる場所は園庭です。1993年度に造成した際、「園庭は岩盤の上に位置し、地震には強い」地質であるとの報告を施工業者(大之木建設株式会社)より受けています。園庭は盛り土ではなく、山を削ってできています。地滑り、地割れなどの可能性は低いとのことですが、しかし、その可能性が全くないわけではありません。より安全な場所へ速やかに移動できるよう、避難経路をあらかじめ決めていきます。



揺れが収まり、園舎が安全であることが確認できれば、通常の保育活動に戻りますが、待機する必要がある場合は幼稚園ホールで過ごします。ホールが危険な状態の場合は、園庭から北門上を經由して、広島女学院グラウンドから早稲田中学校グラウンド、早稲田中学校体育館へ避難・誘導します。早稲田学区の広域避難場所が早稲田中学校体育館であり、広島女学院大学グラウンドから、フェンスの扉を開けて避難することができます。鍵は2重になっていますが、広島女学院大学庶務課、広島女学院ゲーンズ幼稚園事務室、早稲田中学校職員室の3カ所がその2つの鍵の保管場所となっております。事務職員、もしくは園長がその鍵をもって避難します。

早稲田中学校には備蓄庫があり、毛布、食料、炊き出しの備品などがあります。

早稲田地区には自主防災連絡協議会が組織されており、毎月の早稲田地区社会福祉協議会でその取り組みが報告されています。定期的に地域をあげての避難訓練も行っております。早稲田中学グラウンドとつながっている広島女学院大学グラウンドは、緊急避難時のヘリポートとなっております。

⑥連絡体制

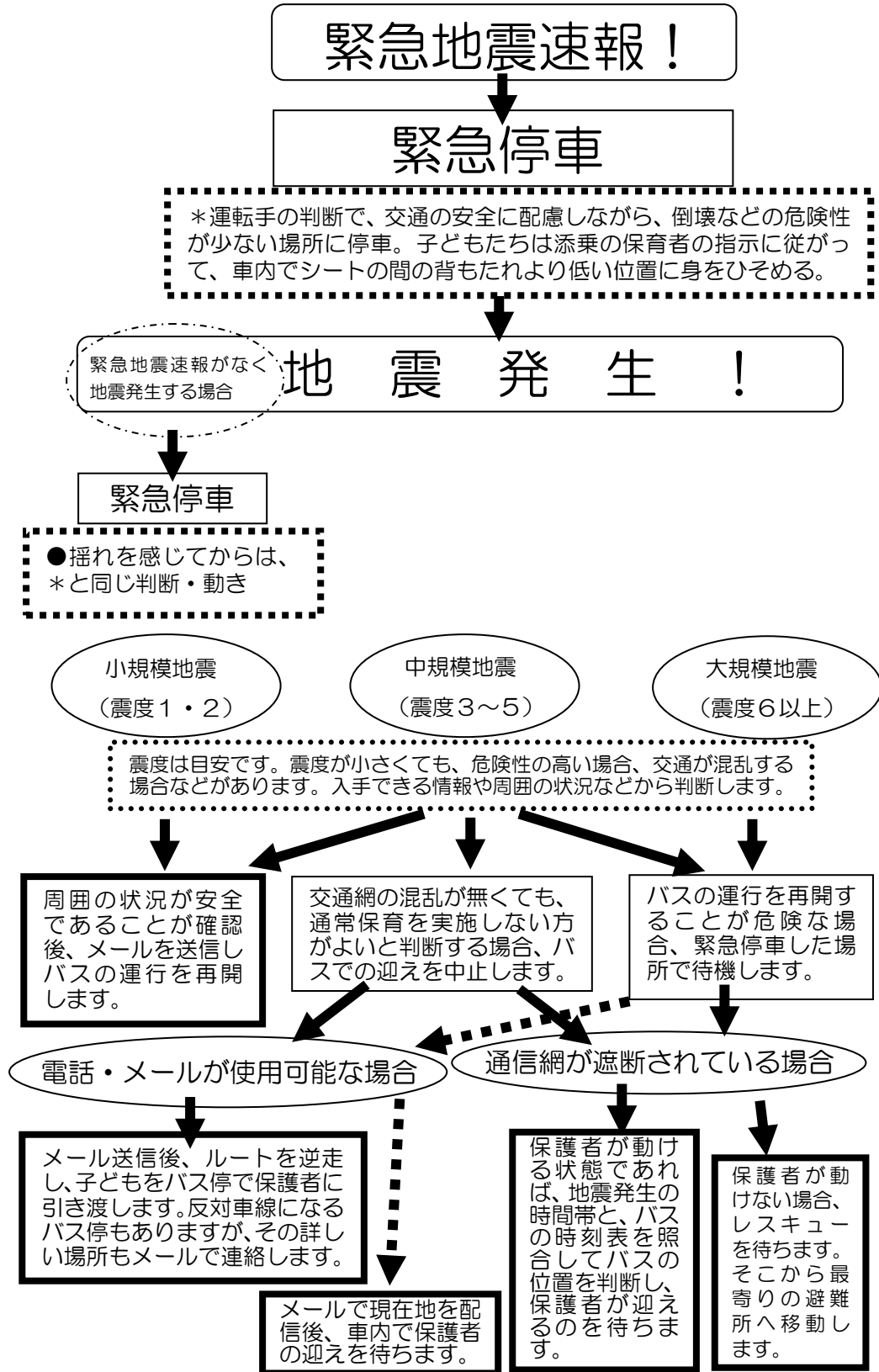
比較的小さな地震で携帯電話がつながる場合は、園の連絡メールで幼児の避難場所、安否、迎えの方法などをお伝えしますが、**大きな地震で連絡手段が断たれた場合、園児は園もしくは早稲田中学校体育館に避難し、保護者の方が迎えに来るまで待機します。**地震発生後に電話回線がつながらない場合は、バスで送ることはいたしません。まずは園にお越ください。園から早稲田中学校に避難誘導した場合は、移動したことを北門付近、園の通用門及び玄関門などの場所に掲示してお伝えします。グラウンドの早稲田中学校側のフェンスの扉から、早稲田中学校グラウンド内へ入り、早稲田中学校体育館へ向かってください。

小さな地震や、道路の安全が確保されて、連絡が取れる場合は「○時□分より、降園バスの運行を開始します。」とメールを配信した後に、園バスを配車します。震度1程度の地震で、揺れを体感せず気づかないまま通常の園生活を過ごしている場合は、メール配信をせずに降園バスが発車することがあります。

⑦園バス運行中の対応

園バス運行時、園に緊急地震速報が入った場合は、直ちに園バスにメールもしくは電話で連絡します。園バスの携帯電話にも速報が入ります。また、運転を委託しているつばめ交通社にも入り、そこから連絡を受けることになっております。電話やメールがつながる間は、連絡を取りながらその場での最善の安全対策をとります。朝のバス、帰りのバス、園外保育でのバス乗車中、バス停で待っている間、丘陵地や市街地、河川や海岸に近いエリアなど、様々な運行状況によって、それぞれに判断しなければなりません。あらゆる状況を設定した、こと細かなマニュアルを作成することには難しさがありますが、フローチャートを作成し、大まかな流れと判断を共通認識しておく必要があります。このフローチャートの作成には、教職員やつばめ交通社だけでなく、保護者の方にも参加していただき、より多くの視点・観点から作り上げていべきと考えます。母の会やファミリーデー、あゆみの会や園庭解放など、多くの方が集まる場を活用して作成する機会を早急に設けたいと考えております。以下にそのたたき台となるフローチャート(案)を示しておきます。ご意見をお聞かせください。

●朝のバス運行時地震対策フローチャート(案)



● 帰りのバス運行時の対応

● 園外保育でのバス乗車時の対応

この項目については、教職員と保護者との協議を重ねて作成してまいります。

⑧ 教職員研修

広島女学院ゲース幼稚園の教職員は、保育活動の中で取り組む避難訓練の他、講師を招いての応急処置や AED 使用の講習会を開催したり、地域の防災訓練などに積極的に参加しています。今後も、かけがえのない子どもたちの命を預かるものとしての自覚と責任を強く胸に刻んで、実践的な学びを深めていきたいと願っています。

(2)守る:発生時の危機管理

① 緊急地震速報～地震発生

大きな地震が起こる可能性がある場合、気象庁より、園に緊急地震速報が入ります。それを受けたら直ちに園内放送で『大きな地震がきます。子どもたちは近くの先生の話をよく聞いて避難してください。』と呼びかけます。クラスでの活動の時間帯はクラス担任が、自由遊びの時間帯は近くにいる保育者が、子どもたちを『押さない・走らない・しゃべらない・戻らない』の原則を守りながら、園庭中央に避難・誘導します。補助教諭は、逃げ遅れている子がいなか、園内を回って確認します。事務職員は、最低限の備品や避難経路のフェンス扉の鍵を持ち出す準備をします。園長は全体の避難・誘導の状態を把握し、避難のために必要な備品や鍵が持ち出せているかを最終確認します。

② 初期誘導・避難

クラス担任は、園児を落ち着かせ、適切な指示を伝え、安全な場所へ速やかに誘導します。補助教諭は、状況に気づいていない子がいなか、注意を払い、最後の子どもを確認してから園庭へ避難します。園内で活動中の保護者は、放送を受けて自主避難します。状況に応じて園庭もしくは駐車場へ避難します。場合によっては、子どもたちの避難の補助をお願いすることがあります。

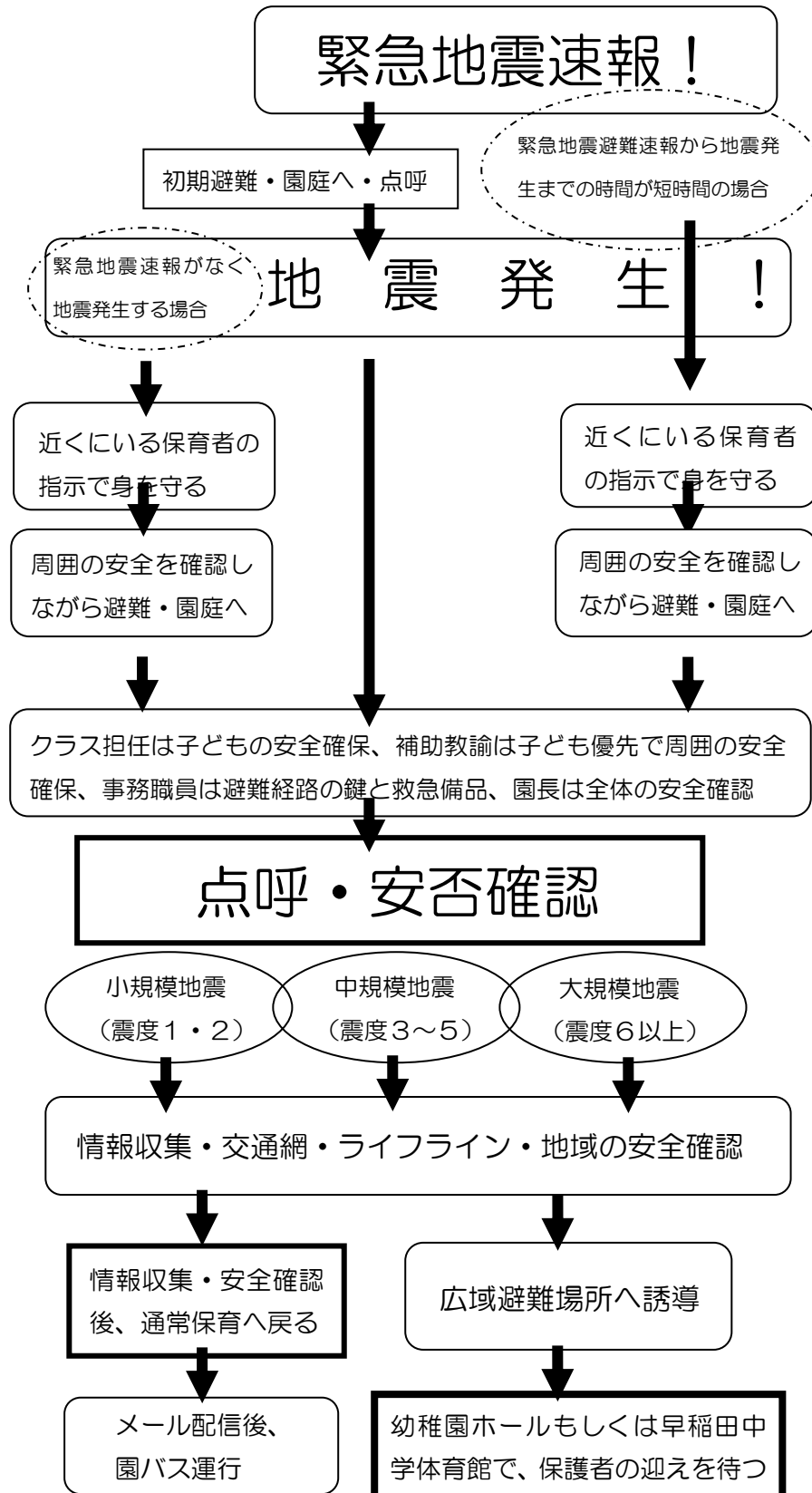
③ 安全確保

事務職員および補助教諭は、可能な範囲で扉や窓を開ける、火の始末をするなど、避難経路確保や二次災害を未然に防ぐための作業を行います。子どもが最優先であり、子どもたちの避難に大人の手を必要とする場合は、その作業はしません。

④ 点呼・安否確認

初期避難場所(園庭・駐車場)に集まり次第、担任がクラスごとに点呼し、子どもたちの安否を園長に報告します。母の会役員は会長もしくは副会長が、各クラブは部長が点呼し、会員の安否を確認し、園長に報告します。会長・副会長、各クラブの部長が欠席の場合は、その代理人が行います。子どもと保護者の避難場所が離れている場合は、合流後に報告します。

⑤ 地震発生フローチャート



(3)立て直す:事後の危機管理

① 負傷者の手当て

負傷者がいる場合は、応急処置を行います。負傷の状態によってその場で処置をする場合と移動する場合があります。移動手段は、負傷の状態によっておんぶや抱っこの場合、担架を使用する場合があります。安全な場所に移動後、応急処置を行います。毛布等を使用し、安静な状態を保持し、救護を待ちます。広域避難場所(早稲田中学体育館)では、負傷の状態に応じたタグを負傷者に添付し、救急車や救護ヘリが到着した際、重症の方から優先的に搬送・救護されることになります。

② 持ち出し備品

職員室、台所、ホールの3カ所に、避難の際必要な備品が収納されています。事務職員及び園長が必要度(高い①～低い③)に応じて、避難誘導の際、可能な限り持ち出します。

【保育者】 クラスの緊急持ち出しのバックパックを背負います。

【職員室】 応急手当の備品(①)、AED(①)、避難経路の鍵(①)、園マスターキー(②)、トランシーバー(③)、ラジオ(①)、ワンセグテレビ(②)、懐中電灯(②)、電池(②)、幼稚園携帯電話3台(①)

【台所】 食品(①)、水(①)

【ホール】 毛布(②:早稲田中学にもあるが数が限られているのでできれば持ち出したいが、かなり量(かさ)があるので、子どもの安全確保と誘導を優先的に取り組みながら、余裕がある場合には持ち出す。)、担架(③:必要性が生じた際)

③ 連絡体制【(1)-⑥に準ずる】

比較的小さな地震で携帯電話がつながる場合は、園の連絡メールで幼児の避難場所、安否、お迎えの方法などをお伝えしますが、大きな地震で連絡手段が断たれた場合、園児は園もしくは早稲田中学校体育館に避難し、保護者の方がお迎えに来られるまで待機します。地震発生後に電話回線が繋がらなくなった場合は、バスで送ることはいたしません。まずは園にお越しください。園から早稲田中学校に避難誘導した場合は、移動したことを北門付近、園の通用門及び玄関門などの場所に掲示してお伝えします。グラウンドの早稲田中学校側のフェンスの

扉から、早稲田中学校グラウンド内へ入り、早稲田中学校体育館へ向かってください。

小さな地震や、道路の安全が確保されて、携帯電話での連絡が取れる場合は「〇時□分より、降園バスの運行を開始します。」とメールを配信した後に、園バスを配車します。震度1程度の地震で、揺れを体感せず気づかないまま通常の園生活を過ごしている場合は、メール配信をせずに降園バスが発車することがあります。

④ 引き渡し

引き渡しの判断時には、子どもの安全を最優先するために以下の点に配慮します。

- 原則として保護者に引き渡します。小学生の兄弟が迎えに来た場合は、避難所(幼稚園もしくは早稲田中学校グラウンド)に留まるように指示します。

- 保護者が被害にあった場合や、移動困難である場合には、代理人に引き渡す場合があります。代理人は年度初めに記入していただく『生活調査票』に登録してある方とします。代理人であることを証明できる身分証などを確認し、署名の上、引き渡します。(2013年度までの『生活調査票』には代理人の欄がありませんでした。)

- 津波の被害の可能性のある地域の家庭の場合、情報を確認・共有し、引き渡しをおこなわず、保護者と共に避難所に留まることを指示します。

- 保護者および代理人の引き取りが困難な状況が続く場合、子どもを避難所で責任をもって預かります。

2) 津波

- ①情報収集
- ②人員点呼・確認
- ③本園は標高80mの高台にあるので、園内から移動せず
- ④保護者への緊急連絡
- ⑤保護者への園児引き渡し

3) 火災

2. 気象

- 1) 台風
- 2) 大雪
- 3) 集中豪雨
- 4) 雷
- 5) 濃霧

3. 園内事故対応

- 1) 子どもを守る視点と、子ども自身の危険回避能力を育てる視点
- 2) けが対応
- 3) 子ども同士のけんか対応
- 4) ぼうけんのもりでの安全管理時
- 5) プールでの安全管理

4. 園外事故対応

- 1) 園外保育での安全管理
- 2) 登降園時の安全指導と管理

5. 保健衛生対応

- 1) 園医
- 2) 疾病 感染症
- 3) 食育 衛生管理と食中毒
- 4) アレルギー対応
- 5) 保育環境の衛生管理

6) 動物飼育に関する安全・衛生管理

7) 危険生物への対応

8) AED 取扱い

9) エピペン取扱い

6. 不審者対応

1) 園内での対応

2) 登降園時の対応

3) バス送迎時の対応

7. 園バス事故対応